

<別紙資料> 「第1, 第6 展示室リニューアルの特徴」

神戸市立青少年科学館は1984年の開館以来40年を超え、開館以来、数年ごとに少しずつ更新を重ねておりましたが、課題として以下の状況がありました。

- 展示物数が 多すぎるため見通しが悪く、死角が多い。
- 空間の余裕がなく、ベビーカーや車いすでの移動が 困難。
- 開館以来の展示物が多く、老朽化している。

今回、◇展示物の配置や動線を工夫し、空間的な余裕を確保。ユニバーサルな展示空間をつくる。

◇静的な展示を減らし一方で、体験・体感できる展示方法を精選し、展示物、展示方法を一新。

○第1 展示室を南館1階 **物理・化学の展示室**とし

- ・中央にシンボル展示「スパークポッド」を設置し各展示室への導入的な機能を持たせ
- ・分野ごとに中心的な展示（コア展示を軸に更新、集約）
- ・照明、映像により展示室の雰囲気大きく更新しました。



○第6 展示室を「遊びを通した科学体験」ができる北館1階 **サイエンスパーク**とし

- ・体を動かし、思い思いに楽しく不思議 を学べる展示を設置
- ・幼児も親子で楽しめるキッズコーナーを新設
- ・実験ショーのコーナーを統合・拡充しました。



また、北館地階、1階、4階、南館1階～3階、団体用のトイレの改修、およびユニバーサルデザインによる案内の見やすさなどを図り、施設の一層の魅力向上を図っています。